

第14回 体の動きを高める運動部会記録

1 参加者

部員： 河野・古川・畠中・岡田・大川・山本・藤原・坪根・鈴木

アドバイザー：森田先生

担当常任理事： 高草木先生 黒澤先生

計12名

2 運動アプリについて(動画マスター山本T作成)

- ・9月中に運動素材が必要(動画はLINEで山本さんへ)
- ・アプリの中身のイメージは、4つの要素と運動の行い方(もとの動き→運動例)、スローモーションあり
ポイントはとりあえずなし、それぞれの運動の工夫を示す動画も入れない 工夫は視点で示す
ポイントについては、なしでやってみて、必要になったら、ポイントありのアプリを作成していくのもよい
情報をあまり伝えすぎず、子供たちがどの程度学んでいけるのかを検証していく(河野T)
アプリをなんのために作成したのかを理論をきちんともつことが大切(森田T)
- ・必要最低限、情報過多にならない程度のもの
- ・子供から出てきたコツを共有し、ポイントへ
- ・授業者の畠中先生が使いやすいものへ

3 ロードマップ(ウェビングマップ、学習カードも含めて)について

- ・学習カード自体はそのままの形で
- ・振り返りは自分の動画を見て振り返られるように
- ・それを見てウェビングマップ
- ・問い→実践(動いて)して課題へ→自分の運動している姿を見る→振り返る→新たな問いへ
- ・一つの問いを重点化して課題へつなげていくこと、何のために問いをもったのかを大切にする
- ・ウェビングマップをどう使うかを指導することはしない
- ・どう使う、何を書くのかは子供自体が考える
- ・振り返りをきちんと行ってウェビングで書いた(広げた問いを含む)ものの中から次の問いをもってくる(河野T)

○真ん中に書く問いについて

【河野T】

ロードマップをどこでつくるのかにもよるが、ロードマップでみんなで共有した単元のゴール(例 自分の目標をもって体の動きを高める、みんなで体の動きを高めよう 等)ゴールを真ん中に書いて、そのゴールに迫っていくためには、何が必要なのかという問いをもつ形がよいのでは。学習過程にもよる。

ロードマップの作成していく流れを見せることができているから伝わらない部分もある。

子供の様子を動画で撮って示していけば、割とイメージはもちやすいのでは。実証の前時や前々時で子供が問いを出して課題を設定しているところを撮って示していければ良い。

5年生の第1や2時でもたせたい問いと、6年生の第1、第2時でもつ問いは違ってくる。

5年生で最初にもつ問いはそれぞれ違ってよいが、6年生は目標に向かった問いを最初にもつべき。

5年生→漠然としたものでもよい、(例 何をしたらいいのかな、どうしたら高まるのかな)第1、2時でもった問いを第3時のロードマップ作成の際に、することが明確になっていく流れ。6年生から何をしたらいいのかだと、5年からの系統性や棲み分けがないものになってしまう。最初から目的をある程度もった上で、問いを広げたり、深めたりを前半からしていってほしい。

今後は学習過程や、教師の働きかけといった授業の中核的なものを話し合っていく。

3 プロモーションムービーについて

- ・プロモーションムービーは取り直しをする。藤井先生が作成したものは他の教員に配布ができない。(児童が映っているため)
- ・アプリで撮った動画を編集つなげてプロモーションムービーで
- ・行う運動全てをプロモーションムービーで流す、動きのダイジェストで、授業風景にはしない
(部内授業でそのムービーから子供が問いをもつことが難しいことが証明されたから、色々な動きや運動をたくさんおのせて魅力的なものにするため)
- ・音源は使用できるフリーミュージックで
- ・長さは3～4分なもの
- ・9月中に撮影して関川 T の計画と合わせていく

4 次回の部会に向けて

- ・学習過程と教師の働き掛けについて

【河野先生】

- ・いつまでに何をすればいいのかを取りまとめた
(それぞれのチームで第1時の日程が決まり次第、スエジューリングをしてほしい)

5 アドバイザー、常任理事の先生より

- ・森田先生→

今、都庁で学校リーダー育成プログラムを担当している

「想像と創造」

想像→考えること

創造→考えたことを実現していくこと

子供に問いをもたせたからには、それを解決していくために、子供がどう実現していくかがとても大切になる。考えたことを実現できるようにしていくためにはどのようなことが必要かをきちんと考えていくことが大事になってくる。

畠中先生が部会で考えたことをどう実現していくか楽しみ

- ・著作権第35条を読んでみるとよい。

- ・高草木先生→

プロモーションムービーを見ることで児童がどのようなイメージをもつかが大切なので、全ての運動を網羅してあった方がよいのでは。

- ・夏季合研で出た、質問や疑問に明確に答えられるようになってほしい。
- ・コロナ陽性者がでると約2週間の学級閉鎖になってしまうので、予防に注意していきましょう。

黒澤先生→

・研究を進めていくと研究主題から離れていってしまうことが多いので、話が行き詰まってしまった時には、小体研の研究主題「一人一人の子どもが深い学びを実現していく体育学習」に立ち返ることが大切。

- ・地区の体の動きを高める運動の研究授業も苦戦していた。(問いをもって課題につなげる)

プロモーションムービーとゴールデンエイジの資料を使っていた。

巧みの運動は長縄だけで行っていた。

分かる範囲で、うちの部会で行っていることを紹介していきたい。